

(別紙様式)

(A3判横)

# 令和元年度学校自己評価システムシート (学校法人昌平学園 昌平高等学校)

目指す学校像	生徒一人ひとりの進路希望を実現するとともに、他者を思いやる優しさ、困難に立ち向かう逞しさ、自ら知を求める積極さをあわせ持ち、広く社会に貢献・奉仕しようとする人材の育成を図る。 教員のモットー「手をかけ 鍛えて 送り出す」
--------	---

重点目標	1. 才能開発教育：個々の生徒の能力を最大限に引き出す。 2. 人間教育：高い品性と正しい判断力を養成する。 3. 健康教育：心身ともに健康な人間を育成する。 4. 国際教育：国際的視野に立って考え、行動する力を養成する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、法人評議委員により、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	卒業生	1名
	学識経験者	4名

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標							実施日 令和2年3月27日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	中間評価	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	①大学進学等の進路目標を達成すべく、生徒が主体的に学ぶことができる授業を展開する。 ②生徒の進路目標、自己実現に向けた計画策定等を行う。 ③英検や GTEC をはじめとする資格の取得を推進する。 ④授業外にも自学習の時間が確保できる体制、環境を整えることで習慣化をさせる。	①教材研究の充実化・授業力向上を図る。生徒が主体的な取り組みができるように ICT を活用し分かりやすい授業を実践する。 ②生徒が進路目標達成に向けた具体的な取り組みができるように、担任が面談を行い、進路等の情報を伝達する。 ③各種資格取得を推進し、計画的に取組みが行うことができるように促す。 ④目標達成に向けて学習計画および時間を管理し、工夫できるようにアドバイスを積極的に行う。	①教材研究に対して積極的に取組むとともに、入試データ分析研修等への参加をはじめ情報収集を行う。模擬試験の分析結果を生徒にフィードバックする。授業展開においては導入しているプロジェクト・スクリーン等 ICT 機器を積極的に活用し、探求型授業を深化させていく。 ②進路指導においては学年単位で実施する進路講演会や大学訪問で大学情報を収集できる環境を整える。入試情報においても適宜情報を伝達することで生徒のモチベーションを引き出す。学習室に卒業生のチューターを配置することで学習や進路に関する質問対応を行う。 ③英語検定・G-TEC については全員受験、その他 TOEIC・TOEIC Bridge・漢字検定・語彙読解力検定などは校内で受験ができる体制を整える。 ④「スタディサプリ」を導入しており、補完的な学習として活用するよう指導する。	①ICT については、積極的にプロジェクト等を活用し、視覚的に生徒に情報を伝達することでやる気を引き出している。進路指導部・学年主任を中心として模擬試験の分析結果を講義している。ICT 機器を用いた取り組みを行っている。 ②担任が行う面談等を通して、目標とする大学とともに、受験校を精査している。 ③資格取得に向けた取り組みを促すために生徒への情報伝達が明確にできたか。 ④計画的に学習習慣を確立し、自主的な取組みができるような環境づくり、働きかけはできているか。	①10月に実施した授業評価アンケートのその結果から課題を確認し、改善が図れている。模擬試験分析をもとに生徒個々への具体的なフィードバックや今後に向けた対策を講じている。ICT 授業においては研修等を実施し活用における参考例の情報を伝達することで更なる活性化につながる。 ②東京大学をはじめとする国立大学、早慶上理、G-MARICH の合格者数が過去最高の合格者数が出るなど、成果を上げることができた。 ③英検の取得率が約 83.6%と昨年度より 3%減少した。各学年において 1 級・1 級の上位級に合格する生徒が増加傾向である。しかし、高 1 は未取得者が 25.5%と多く、今後も積極的な受験への働きかけも行っていく必要がある。 ④完備している 2 つの学習室は早朝から活用する生徒が多く、放課後にはほとんどの座席が埋まる状況となるなど学習意欲が高い生徒が多いのは良い働きかけができてきている結果と言える。部活動所属の生徒も部活動前後の時間を活用し、学習に励んでおり、文武両道が実践されていると言える。	B	①授業見学や研究授業等を積極的に実施し、課題克服に努める環境を作り出す。生徒の目標とする志望校合格に向けて教員全体が情報共有し、計画を策定していく。ICT については、計画的に研修等を通して、全教員が活用できる体制を整えていく必要がある。 ②生徒が主体的に学ぶ環境を作っていくために進路講演会や大学訪問等を実施し、積極的に情報を伝達していく機会を作る。担任も積極的に面談を行う体制も整える。 ③特に全員受験の英検 GTEC においては担任が取得に向けた積極的に取り組むことができるような情報伝達を行う。 ④現状において、学習室を積極的に活用する意欲の高い生徒が多いため、更なる環境整備を行っていく。	①東京大学への現役合格をはじめ国立大学に 89 名、早慶上理に 78 名、G-MARICH には 203 名が合格し、合格者数はともに過去最多は素晴らしい結果と言える。これも生徒の学習意欲の向上からの頑張りはもとより、教員の工夫を凝らした進路指導によるものであり、今後も継続した取組みをお願いしたい。 ②次年度の大学入試改革に伴い、対策や現状分析等、生徒が前向きに学習に取り組む環境作りをお願いしたい。 ③英語検定をはじめとする資格取得が大学入試において優位になり得る状況を明確にする等、生徒のモチベーション向上につなげてほしい。 ④生徒が自発的に学習に取り組む中で、学習室のさらなる整備をはじめとする学習環境の充実化も図ってほしい。 評価：B
2	①日常生活におけるマナー指導、学習を継続して行う上での基本的な生活習慣を確立する。 ②生徒が主体的に参加する生徒会活動や課外活動の充実化を図る。 ③生徒に様々な情報を伝達する機会を大切にするとともに、生徒のコミュニケーションスキルが向上できる環境づくりを行う。	①生徒が公共交通機関等や自転車を利用する上で適切なマナーを理解、実践できているか。 ②地域交流をはじめとする行事への積極的な参加、部活動において充実した取組みができているか。 ③担任をはじめ各教員が面談等を通して生徒と積極的にコミュニケーションをとる機会を作ることができているか。	①HR や学年集会で教員が現状において必要な生活習慣の確立を促す。また、校外指導においても現状把握を行い、マナーをはじめとする指導を積極的に進めていく。 ②近隣地域が主催する行事の手伝いをはじめ、ボランティア活動などを周知し、積極的な参加を呼び掛ける。 ③定期的な面談を行い、現状の不安を取り除き意欲的に取り組む体制を作り出す。	①来校者の方にも積極的に挨拶がされているという声をいただいている。通学におけるマナーにおいては自転車における安全マナーには課題があり指導が必要となる状況もある。 ②杉戸町主催のイベントへの積極的な参加や地域団体と共同の開催、ボランティア活動に積極的に参加するなど町の活性化に積極的に協力している。 ③生徒の現状把握をし、理解するための積極的な働きかけができてきている。	①校内巡視・登下校時における通学路指導を行い、マナーが守られているかの現状把握を行う。 ②地域主催イベントやボランティア活動に生徒とともに教員も参加し、状況把握に努めている。 ③生徒の状況把握に努める中で教員から挨拶や言葉がけなど積極的な働きかけを行う。	B	①通学時においては、事故や怪我につながる状況にはならなかったが、マナーについて更なる改善を求めていく必要がある。 ②杉戸町をはじめとする近隣との地域交流については、ボランティア活動をはじめ生徒が積極的な取組みを行うなど多くの体験ができたと言える。生徒も様々な経験や体験から多くのことを学び、活躍ができる場ができたことは有益であったと言える。 ③生徒、教員間の積極的なコミュニケーションは挨拶をはじめ取れていた。自習室のチューター体制等、生徒が進路活動を含めた様々な相談ができる体制を整えていく。	①マナーについて、来校時に気持ちよく挨拶をしてもらえるので非常に好感が持てる。自転車については、近年事故が多発している状況であり、被害者ではなく加害者にもなり得ることから安全面について未然に事故を防ぐ指導を継続して行ってほしい。 ②以前は少なかった地域との交流が増え、部活動の大会等にも多くの方が応援に来られることは大変良いことであり、今後も継続してほしい。また、生徒の活躍の場が広がる取組みは今後も継続してほしい。 ③生徒一人ひとりに目を向け現状把握をするとともに積極的な働きかけをしてほしい。 評価：B
3	①文武両道を具体的に実践できる環境を整える。 ②教育相談を充実させる。	①文武両道ができる環境が整っているか。学校生活状況の把握を行う。 ②面談等を通して、生徒が抱える悩みの解決や精神的な支援ができているか。	①部活動と学習の両立を図るために時間の効果的な活用方法の例等を積極的に伝える。顧問が競技力向上の視点だけではなく、学習に取組み時間設定を行う。 ② SNS 講習会を行い、現代社会における問題提起し、未然に防ぐとともに、解決・相談できる体制を作り出す。	①関東大会や高校総体に数多くの部活動が出場するなど、部活動の結果を残すことができた。部活動生徒は学習意欲も高く、部活動外の時間を活用して自らの課題克服に努める状況が見られる。 ②担任が生徒状況を適宜確認し、個人面談等を通して生徒の状況把握に努めている。	①部活動外の時間を活用して、自主学習に取り組む姿が見られるか。 ②生徒との面談等を通して実情の把握ができていくか。特に SNS における問題点等の実態を理解・把握できているか。 ③生徒の状況把握は担任が行うよう努めてはいるが、SNS 使用における課題はまだ残る状況である。適宜、講習会を行うなど課題解決に努める。	B	①文武両道における具体的な取組みが習慣化され、成果につながっていると言える。実際に全国大会に出場した選手が自らの目標とする進学先に合格するなど良い方向につながったと言える。下級生も現状から学び、数多くの取組みができると期待できる。 ② SNS の対応状況については、他校の状況もリサーチし、現状の課題克服に努めていく必要がある。	①部活動に所属する生徒の学習面でも頑張っている姿は他の良い模範であり、生徒の励みにもなる。高いモチベーションを持って入学する生徒が多いので今後も継続した取組み、環境作りを行ってほしい。また、部活動の全国大会での活躍には感動した。更なる向上心を胸に飛躍してほしい。 ②現代の社会において、当たり前のように使われている SNS は便利な一方で問題になる面もある。生徒の状況把握とともに講習会の実施など問題や課題に向き合う機会も作ってほしい。 評価：B
4	①英語力の強化につなげる ②学校行事(希望生徒対象)として行う語学研修の充実化を図る。 ③帰国子女入試等、積極的に受け入れる環境づくりを行う。	①実践の場で活用できる英語力・会話を身につけることができるか。 ②具体的な経験談や効果を周知し、生徒が積極的に参加できる体制を整えることができるか。 ③帰国子女の生徒が他生徒に良い与えることができるか。	①ネイティブ教員が常駐する International Arena(日本語禁止部屋)において、生徒が積極的に活用していく体制作り担任を含めて行っていく。 ②海外語学研修の積極的な周知とともに新設した校内で実施するハーバードサマースクールなど英語に触れる機会を作る。 ③帰国子女との交流により、英語力向上に向けたモチベーションを高めていく。	①休み時間に International Arena(日本語禁止部屋)でネイティブ教員と積極的に会話をする生徒が多く見られた。 ②ブリティッシュ・ヘルズ国内語学研修に 139 名、オーストラリア語学研修に 21 名ハーバードサマースクールには 40 名が参加し、自らの英語力向上に努めた。 ③帰国子女との交流が他の生徒のモチベーション向上につながっているか。帰国子女募集においては海外在住日本人への認知度を高める具体的な活動ができたか。	①International Arena(日本語禁止部屋)を活用し、実践的な英語力向上に努める生徒が増えている。 ②校内行事における国際交流活動の成果報告・発表されたか。また、活動において生徒が英語を学ぶモチベーションにつながっているか。 ③帰国子女との交流が他の生徒のモチベーション向上につながっているか。帰国子女募集においては海外在住日本人への認知度を高める具体的な活動ができたか。	B	①International Arena(日本語禁止部屋)においてはネイティブ教員が工夫を凝らし楽しみながら英語を学ぶことができる環境・体制を作っている。今後も大学入試改革に対応できるような指導を含めた体制作りを継続して行っていく。 ②セブ島語学研修には 37 名が参加した。海外語学研修における今回の食中毒事件を受け、見直しを図るとともに、国内実施の可能性を含めた中で検討を行っていく必要がある。 ③帰国子女からの刺激を受け、英語への興味・関心、モチベーションの向上につながっている生徒が増えている点から、今後も海外での説明会開催をはじめとする募集活動も積極的に取組んでいく。	①パワー・イングリッシュ・プロジェクトの実践もあり、英語を得意教科とする生徒が多くなっている。基礎的な知識の習得とともに今後は海外で活躍できる人材の育成という観点からも実践力の向上に努めてほしい。 ②海外語学研修は実践的な英語力を養う良い機会となる。今年度の課題を整理・精査し、生徒にとって有意義な機会となるように努めてほしい。 ③帰国子女生徒の英語力の高さにより、生徒がさらに学習に励んでいくモチベーション向上につながっていると言える。今後も海外での説明会をはじめとする募集活動も継続してほしい。 評価：B

# 令和元年度学校自己評価システムシート (学校法人昌平学園 昌平中学校)

目指す学校像	生徒一人ひとりの進路希望を実現するとともに、他者を思いやる優しさ、困難に立ち向かう逞しさ、自ら知を求める積極さをあわせ持ち、広く社会に貢献・奉仕しようとする人材の育成を図る。 教員のモットー「手をかけ 鍛えて 送り出す」
--------	---

重点目標	1. 才能開発教育：個々の生徒の能力を最大限に引き出す。 2. 人間教育：高い品性と正しい判断力を養成する。 3. 健康教育：心身ともに健康な人間を育成する。 4. 国際教育：国際的視野に立って考え、行動する力を養成する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、法人評議委員により、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	卒業生	1名
	学識経験者	4名

学校自己評価								学校関係者評価	
年度目標								実施日 令和2年3月27日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	中間評価	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	①IB授業と並行して主要5教科の基礎基本を徹底する。 ②校外学習や体験学習(プログラム)から考えることへの基礎作りを行う。 ③各種資格取得を目指す。 ④家庭学習・自学自習の定着を図る。	①生徒が主体的な学び・取組みができるように興味を引き出す授業展開となるように努める。 ②スペシャル・ウェンズデイをはじめとする体験学習(プログラム)などを通して、主体的な学びの実践につなげる。調べ・まとめる・発表する・考察する、発表の場を設けることでプレゼンテーション能力の向上につなげる。 ③将来の方向性を見据えた中で英検をはじめ各種資格取得に積極的に取り組むことができる環境を学校として作る。 ④毎日の家庭学習・自主学習を行っていく上での学習計画および時間の管理等についてのアドバイスを行う。生徒自らが工夫できる環境を作り出す。	①校内に導入しているICTを活用し、視覚的な側面からも生徒の興味関心を引き出すための授業展開を工夫して実践する。また、授業を行う上で教材研究に積極的に取り組むとともに、研究が授業や授業見学を通して授業力の向上に努める。特に主要5教科においては基礎基本の定着を図る取組み・環境作りを行う。 ②外務省や大使館訪問をはじめとする校外学習や模擬裁判などにより、知識はもろろん机上では学ぶことができない経験を様々な体験型プログラムを通して身につける。 ③英語検定・GTECの全員受験をはじめ、各種検定への積極的な取組みを促す。各種検定に向けた対策を担当教員が中心となり積極的に行う。 ④能率手帳を活用し、日々の計画立案を行うこと、SHシステム(自動問題作成システム)を積極的に活用し、自身の弱点克服に向けた取組み、予習ができる環境を作る。	①ICTを積極的に活用し、生徒の興味を引き出す授業が展開できるような積極的な取組みを行っている。 ②体験学習・体験型プログラムにおいては楽しみながら生徒自らが考えグループワークをしていく姿が見られる。 ③全員受験の英検においては、英語科だけではなく、担任・学年が状況を把握し、指導を行っている。 ④能率手帳を担当が確認をし、生徒が計画的に学習に取り組むことができているかを把握している。SHシステム(自動問題作成システム)を活用し、自身の課題と向き合う状況を作るように心がけている。	①授業見学等を行い、自らの課題抽出、授業力向上に向けた取組みを行っているか。授業評価アンケートによる客観的な評価・データから指導をしていく上での課題を確認し、改善を図ることができているか。 ②各種プログラムの企画立案等において生徒が主体的な学びを実践できる環境を作ることができているか。 ③各種検定に向けての積極的な取組みに対する支援、上位級獲得に向けたモチベーション向上につなげることはできたか。 ④能率手帳やSHシステムの活用状況を適宜確認し、教員が現状の把握をすることができていたか。そして、生徒が主体的な取組みができていたか。	①現状の学力の指標となる学力推移調査の結果を分析すると、昨年度に比べ各教科とも全体的に上昇傾向であると言える。特に課題であった数学についても基本的な知識定着を目指した授業展開から一定の理解度を示す結果となったと言える。 ②毎年、様々な体験学習や体験型プログラムを実践していく中で学年が上がるにつれ、最終的なプレゼンテーションの質も上がってきていると評価できる。適切な課題・材料を与えることで生徒が主体的に学ぶ姿勢を身につけていると言える。 ③全員受験の英語検定の取得率においては中学校全体で%超となり、2年生はほぼ全ての生徒が3級以上を取得、3年生は過去最高の84.1%が準2級を取得するなど成果が上がっている。 ④計画的に学習に取り組むことができる生徒が増えている一方で自らの学習に対する理解の遅れに不安を感じ、まだ前向きに取り組むことができない生徒もいる。SHシステムについては課題克服に積極的に活用している生徒は成果を実感し学習意欲の向上にもつながっていると見える。	B	①IB授業と並行して授業を展開していく上で教員の授業における工夫が必須となる。主要5教科については特に基礎基本の定着にも主眼を置き、教員も授業力向上に努めていく必要がある。また、学力推移調査や定期考査について現状把握に努め、生徒に課題等をフィードバックしていくことで前向きな取組みにつながっていくと言える。 ②体験学習・体験型プログラムは今後も継続的な取組みを行っていく。その中でプログラム課題の見直しや精査は状況に応じて行い、生徒の主体性を引き出す環境を作っていく。 ③各種検定については、資格取得に向けて各教科担当だけでなく、担任・学年を含め現状の把握とともに支援を行う体制を今後も強化していく。 ④生徒一人ひとりと向き合い、状況把握に努め、改善していく方向性を全体が共有していく体制を作り出す。参考となる実践の例示などにより、具体的な支援を行っていく。	①ICTの活用等によって生徒が主体的に学ぶ環境が整えられていることは非常に良いことであり、今後も継続的に工夫を凝らした授業展開をしてほしい。そして、現状における課題を生徒に具体的にフィードバックしていき、前向きに指導していくことが今後の成長にもつながる。 ②体験型プログラムによって興味関心を引き出すことで生徒の学習意欲向上につながっている。世界をテーマとしていることでグローバルな知見で見聞を広められるように努めてほしい。 ③特に英語検定については多くの生徒が意欲的に取得を目指すことは学校全体の良い取組みとなっている。今後も継続した指導をする中で環境整備も行ってほしい。 ④生徒が計画的に学習をしていくための工夫がされ、生徒が家庭学習や自主学習における習慣ができてきている。まだ、改善を必要とする生徒もいるため今後も工夫をした取組みを実施してもらいたい。 評価：B
2	①日常におけるマナー指導や基本的な生活習慣を確立する。 ②生徒が主体的に参加する生徒会活動の活性化を図る。 ③コミュニケーションスキル向上を目指す取り組みを活性化させる。	①校内外における挨拶の励行をはじめとするマナー指導をHR等で行うことができるか。特に自転車通学者には交通事故防止対策を徹底できているか。 ②地域交流を図り、イベントやボランティア等への積極的な参加等、生徒の活動の幅を広げることができているか。 ③各教員が生徒と積極的にコミュニケーションをとる機会を作ることができているか。	①校内の巡回指導、登下校時の通学路のマナー指導を定期的に行う現状の把握に努め、基本的な生活習慣の確立を促す。 ②地域のイベントやボランティアなど生徒の活動の場を広げ、積極的な参加を呼びかける。 ③各行事において英語で問いかけを行うなど、工夫をしながら学びを得る機会を作る工夫をしている。	①通学時の公共交通機関の利用におけるマナーにおいて、概ね良好であるとは言えるが、配慮に欠ける行動をとってしまう生徒も少なからずいる。 ②生徒会本部役員を中心に昌平祭をはじめとする各行事において積極的な活動を行っている。高校生とともに活動から多くのごとを学び、成長につながっていると言える。 ③教職員から積極的に挨拶・声かけを行っている。また、1つの例として学年での指示連絡を英語で行うことで生徒が考える機会を多く作っている。	①教職員全体が校内外における現状把握に努め、指導体制を確立できているか。マナー指導において生徒が自ら気づき、自覚を促す指導ができているか。 ②生徒の活動の場を広げることができように参加の呼びかけができていたか。 ③生徒・教職員ともに積極的に挨拶・声かけを行うことができていたか。	①通学時の公共交通機関利用におけるマナーについては多くの生徒は礼儀正しく行動はできているが、一部の生徒に配慮に欠ける言動が見られた。 ②生徒会活動においては昌平祭をはじめとする行事への参加等、高校生と協同する中で積極的な姿勢が見られた。 ③積極的な挨拶など生徒の良い取り組みが実践できていた。学年での指示連絡を英語で行うこと、日常から学びの環境を作ることができた。	B	①少人数ではあるが、配慮に欠ける行動が見られた状況があった。課題を整理し、担任・学年団を中心に継続的な指導に努める。中学朝礼等の時間を活用し指導も行っていく。 ②地域交流やボランティア活動の全体周知を含め、生徒の活躍の場を広げようとする。 ③教員からさらに積極的に声かけを行う。その中で生徒がいつてもコミュニケーションを取れる環境を作る。 評価：B	①通学時の公共交通機関の利用、バス乗車マナー等については、生徒一人ひとりの自覚を促す指導を集会等も含めて継続的に行ってほしい。 ②様々な学校行事、生徒会活動や課外活動において高校生と活動することで良い影響を受けているように見える。今後も生徒の可能性を引き出す活動の周知等を積極的に行ってほしい。 ③生徒が抱える課題や悩みを解決していくために、生徒への積極的な働きかけを継続して行ってほしい。 評価：B
3	①体育・スポーツ活動を推進する。 ②教育相談を充実させる。	①部活動等において、チームや個人の目標を達成するために継続的な取組み、新たなことにチャレンジする姿勢が見られるか。 ②生徒が現状で抱えている不安や悩みなどを解消するために個人面談等を通して、精神的な支援ができていくか。	①部活動での目標を明確にし、部員と切磋琢磨する中で努力が継続できるように顧問を中心に積極的な働きかけを行う。 ②生徒の状況把握を行うために声かけや個別面談を行う。また、SNS講習会などを通して、生徒が直面している問題への考え方や解決方法を伝えていく機会を作る。	①学習と部活動の両立を図る中で、自ら時間を管理・コントロールし、有意義な活動を行うことができている。 ②現状を把握するために個別面談や積極的な声かけを行っている。多くのトラブルのもとにも状況把握に努め、早期発見・解決を目指す。	①生徒が学習同様に目標達成に向けて主体的な活動ができているか。 ②生徒状況および抱える問題や悩みを全教職員が共有し、情報交換ができる環境・体制を作ることができているか。	B	①生徒が目標達成に向けて計画的な指導をしている。豊かな人間性を育むための活動は競技力の向上のみならず成長の場でもあることを認識させる。 ②SNSの対応において教職員が情報共有する機会を今後も作り出す。外部の方に依頼し、講習会を実施してもらうとともに、生活指導部を中心に講習会に参加し、様々な情報を得るまた、保護者にも使用における注意事項を理解してもらう働きかけを積極的に行う。 評価：B	①今年度もテニス部が全国大会に出場するなど素晴らしい活躍が見られた。テニス部の活躍や高校生と同じ環境で活動することにも刺激を受け、今後のさらなる飛躍を期待したい。 ②SNSにおいて起こり得る問題や課題を精査し、トラブルを未然に防ぐような集会における情報伝達をはじめとする取組みを今後も継続してもらいたい。 評価：B	
4	①実践的な英語力を身につける。 ②「世界」を共通テーマにプロジェクト学習・課題探究プログラムを実践する。 ③実践的な学びの機会を作る。 ④帰国子女生徒の積極的な受け入れにより活性化を図る。 ⑤IB(国際バカロレア)による学習効果の向上を目指す。	①学んだ英語の知識を活用して自分の考えを発信することができるか。 ②世界を意識する・知ることで様々な事象を多面的に捉え、広い視野で物事を見ることができているか。 ③生徒が普段学ぶ英語の知識を各語学研修の中で実践、積極的にコミュニケーションを取り、自らのスキルアップにつなげることができているか。 ④帰国子女生徒が他生徒に良い刺激や影響を与えることができるか。 ⑤MYP(中等教育プログラム)における学習効果がグローバル人材の育成につなげることができるか。	①英語の授業において、知識の習得とともにプレゼンテーションを行うなど、実際に話をする機会を作る。 ②世界中の様々な問題に気がつき、正解のない課題に取り組んでいく中で様々な事象を多面的に捉えることの重要性を図る。 ③授業内で学んだ知識を語学研修等で学びの機会が得られるように支援する。 ④帰国子女生徒の語学力向上に向けた取組みが他の生徒に良い刺激を与える。例示などを周知し、意欲向上につながる環境を作る。 ⑤調べ学習やプレゼンテーションやディスカッションなどアクティブラーニング的な手法を用いた授業を実践し主体的な環境を作る。	①英語Gの授業において基礎的な知識を身につけ、IB英語で英語によるプレゼンテーション等を行い実践できる環境を作った。 ②スペシャルウェンズデーでJICAを訪問し、各テーマに基づいた探求プログラムを実践した。調べ学習を通して外国文化を知り、理解を深め、様々な課題を抽出し解決策を考えた。 ③プリティッシュビルズ語学研修には1.2年生全員、オーストラリア語学研修には16名が参加し、学びの機会を作った。 ④帰国子女の語学力、実践力に刺激を受け、英語力向上の意欲が高まっている。海外の募集活動も活性化させている。 ⑤IB教育への理解が深まり、授業展開においても質が高まってきている。	①生徒は基礎的な知識を習得できているか。また、実践で活用できる英語力の向上につながっているか。進捗等を含め適切な授業展開はできているか。 ②課題発見・調べ・まとめる-発表という授業展開を通して、主体的に課題に取り組むことができているようになったか。 ③語学研修においてチャレンジする姿勢、モチベーション向上につなげることはできたか。 ④帰国子女の英語力を身近に感じモチベーション向上につながることができているか。生徒募集においては海外在住の日本人に対して認知度を高めることができたか。 ⑤IB実践における教員間の情報共有とともに質の高い授業展開につなげることができたか。	①中学校における英検の取得率は98.0%である。直近3年間で在籍生徒数が増えながらも、高い割合での取得を達成している。上位級の合格に向けた具体的な取組みや指導を担当だけでなく全体で作っていくことが大切になる。 ②学習意欲の向上、主体的な取組みにより、最終的な発表においても質の向上が見られる。今後も継続していく必要がある。 ③セブ島語学研修に10名が参加したが、集団食中毒事案発生により途中帰国となった。3年生は新型コロナウイルスの影響により、ニュージーランド修学旅行の延期の措置を取った。 ④帰国子女の語学力にも刺激を受け、将来を見据え語学力向上に意欲の高い生徒が増えている。海外での募集活動においては進路実績等により認知度も高まってきている。 ⑤生徒が主体的に考え、発信できる授業展開を行っていることから思考力も身につけていると言える。授業においてディスカッションやプレゼンテーションを通して表現力も身につけている。今後もさらなる質の向上に努めたい。	B	①基礎力向上とともにプレゼンテーション能力向上を目指した授業展開の工夫、資格取得に対しての意識づけ等、全教員が生徒のやる気をさらに引き出していく必要がある。 ②調べ学習からプレゼンテーションまで生徒が主体的に学ぶ機会を今後も作っていく、生徒の学習に対するモチベーション向上につなげていく。 ③海外語学研修における今回の食中毒事案を受け、様々な点で見直しを図っていく必要がある。今後も英語を活用できる学校行事を増やすことを検討していく。 ④IB教育の推進により海外でも本校の認知度は年々高まってきている。今後も海外で行う説明会とともに国内企業における周知等、帰国子女募集活動を継続していく。 ⑤生徒の学ぶ姿勢は年々確実に高まってきている。今後は大学入試を見据えた各教科における学習指導および問題解決能力を養う授業展開も工夫して行っていく。 評価：B	